

**●近畿子どもの水辺の第 1 次締切り日が 9 日に迫っています**

近畿地方全域にチラシの配布がされていますので、かなりの反応があるのではないかと大きな期待をしていました。3 日現在一校のみの申し込みとなっています。締め切り間際に殺到するものと淡い期待をしていますが、それ程甘いものではない厳しいものだと思います。この取り組みは川や水辺で活動する子供たちが一堂に集い発表を行い学びあい、交流を深めあい、励まし合う場として、広く長く行われてきました。府県を超えた大きな近畿地方での取組です。河川財団の支援金を得て実行されてきました。それがこの 2 年間打ち切られて中止されてきたのを事務局の持ち回り制で当番になった京都府が強く働きかけて再開することになりました。

開催日までは時間がまだまだありますので、広く案内を行い成功出来るようさらに頑張りたいと思います。発表団体発掘に力をお貸しください。ご協力をお願いいたします。

**●木津川希少種植生調査管理業務**

夏草が生い茂り、秋の実りの時期を迎えるために植物は精一杯勢力を伸ばそうと頑張る時期にきています。木津川の多くの場所で、クズが広く勢力を伸ばし手入れがされていない場所ではわが世の春とばかりに覆い尽くしています。また手入れがされている場所ではセイバンモロコシが大きく高く背を伸ばし生い茂っています。先日管理地の明示杭を探し出し作業に京田辺市域の 20 個所でしたが、見つけるのに相当時間がかかりました。特にレンリソウの生育地ではセイバンモロコシの天下になっていました。間もなく実りの時期を迎え種が飛散することになります。出来るだけ早く頭部だけでも刈飛ばしておくことが必要です。9 月 15 日から始まる竹蛇籠の製作前に、実施したいと考えています。

**●里山農園にイノシシの侵入許す**

侵入防止柵の向こう側とこちら側の畑部分の雑草をきれいに刈り取っておくことが必要で、猪の姿が白日の下にさらさねばならないような場面の設置が必要とのことです。草むらが生い茂っているような手入れがされていない場面をより好んでくることになりますから、草刈りを放置しておくことは生き物をお呼びしているようなものです。作物を害獣被害から守るためには、まず草刈りを実施することです。これまでの数年間で 3 回侵入を許してきました。この 3 回はいずれも 9 月初めに侵入をされています。ひどい時にはサツマイモ畑がすっかりやられるといったこともありました。ここからの教訓は、8 月末には草刈りの実施とか防護柵の点検を事前にイノシシなどの侵入防止対策として実施することです。今年はこの点検補修が十分できていなくて、雑草が生い茂る状態になっています。

**●秋の各種展示発表の検討始める**

これまで京都府環境フェスタ 京田辺市市民文化祭 城陽市の緑化フェスタ等数多くの取組みに参加してきました。それは地域における生き物や植物の生育や生息環境が汚染されることなく維持されていることから、レッドデータブックに掲載されている絶滅に向かって進んでいる数多く発見されてきたから、それを広く知らせ、自然を大切にする仲間の輪を大きくするとして、成果の広報を中心に積極的に参加してきました。またその記録を冊子にまとめてきました。

今年はこれまでの方針に加えて、大きな問題にされている外来種の実態に焦点を当てた展示の必要性に気づきました。

そこで今年は里山と木津川に関係する展示を企画することにしました。そこで植物班の伊藤さん昆虫班の金田さん、魚班の大釜さんを中心に工夫を凝らすことになりました。もちろん現物展示には竹蛇籠の設置、あるいは木津川の魚の水槽の展示も取り入れることになる予定です。ご期待ください。

## ●会誌 47 号原稿募集の締め切りは 9 月 20 日です

前の 46 号には会員の原稿が少なく、かなり苦勞をしました。これまでからできる限り全会員様に一度はご寄稿をいただきたいと思います。「里山の会と私」と題して一筆をお願いいたします。

この会誌はいよいよ 25 周年記念を迎えるにあたって、その役割が大変大きいことを改めて認識しています。先の理事会で 2020 年 12 月 12 日を記念集会の日と決定しました。当日まで残す 4 号となっていますので、この間にぜひともご登場とご寄稿をお願いいたします。第 1 次原稿締め切りは 9 月 20 日となっております。鉛筆書きでも結構です。原稿用紙でも郵送ください。お待ちしております。できればメール送信が好都合です

## ●秋の展示について

植物の伊藤さん、昆虫の金田さんを中心に資料作成をいたします。加えて木津川に設置する中聖牛の本物展示を計画しています。蛇籠の現物展示に加えて里山の生き物の映像も披露できればと考えています。もちろん魚の展示も水槽で現物を見ていただくことなる予定です。ご期待ください。

## ●9 月 15 日の竹蛇籠製作講習会に田辺高校の生徒さんから参加の申し込みが届きました

「竹蛇籠に興味があるので、友人を誘って参加します。3 名ほどになります」とのメールをいただきました。若い人に関心を持っていただき大変うれしいことです。

## ●京都新聞に淡竹（ハチク）の花が咲いたとの夕刊一面トップの記事が掲載されました

この発信源は竹を研究している小林慧人君の研究が公表されました。

## いよいよ迫ってきました

### ●竹蛇籠製作講習会 参加者募集中

**9 月 15 日（日）**

**午前 9 時 30 分～12 時まで**

**玉水橋東詰め 広場**

**JR 奈良線 玉水駅下車 西へ徒歩 5 分**

**手袋 帽子 作業服 作業できる靴**

**毎週 土日 連続開催**

**申込み必要なし 自由参加 現地受付**

●来週号で 790 号になります。大きな節目としての 800 号は中聖牛の設置完成(11 月 23・24 日) 直前の 11 月 21 日に到達します。会誌の里山の自然は任意団体として結成直後から発行がされました。当時からするとイベントの回数も取組み内容の充実も進み、会員も増加する中、年間 2 回の会誌では情報の連絡は間に合わないからとなって、更に会員への情報の共有のために週刊のニュース求められました。その当時からパソコンの普及も進展し、ホームページの開設もされていて、メール送信は無料扱いなので、週刊ニュースをお届けすることになりました。数えて 16 年が経過したことになります。当時から近所に手配りを引き受けていただいた皆さんは今日も頑張ってください。編集してメール送信、印刷などの作業も当時の皆さんが頑張ってください。こうした皆さんがガッチリとスクラムを組んでいただいているので、間もなく 800 号を迎えられることになります。